

第2回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議（議事要旨）

- 1 日時 平成28年10月6日(木)午後3時00分～午後5時00分
- 2 場所 上天草市役所大矢野庁舎 書庫棟2階会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議事次第
 - (1) 開会
 - (2) 座長挨拶
 - (3) 講話
 - (4) ワークショップ
 - (5) その他（企業版ふるさと納税、地方創生拠点整備交付金）
 - (6) 閉会
- 5 配布資料
 - 資料1 地方創生応援税制の創設（「企業版故郷納税」）
 - 資料2 上天草市企業版故郷納税（寄附対象予定事業）
 - 資料3 地方創生拠点整備交付金についてガイドブック等 ・上天草みしらんガイドブック ・上ガール天草
・KAMI AMAKUSA（観光ガイドブック） ・極上旅
- 6 議事概要
 - (1) 開会
○事務局より、平成28年度の第2回会合を宣言。シティプロモーション動画の紹介及び上映。配布資料の確認。議事進行を座長に依頼。

(田中座長)
 - ・みなさんこんにちは。地方創生の会議は、いつも年輩の方ばかりで、場合によっては女性がいないこともある。（男女比を）1対1にし、平均年齢も30代まで下げていきたい。
 - ・冒頭で上天草市のプロモーション動画をご覧になられて上天草で今何か起きているか皆さんも感じていただけたと思う。今日は「色んなことにチャレンジする」という話をしていきたい。最初に僕と入口さんから地方創生でどんなことやっているか話をした後、ワークショップを行う。

- 市の広報にも掲載された上天草市の地方創生の絵は、構成員の片島荷風さんとご主人の雄一さんにより描かれたもの。僕は南阿蘇及び上天草を始め、山都町、菊池市、水俣市において、地方創生の仕事をしているが、上天草市の取組みは会心の出来です。「好循環を生む」というのが地方創生の一つのキーワードとなる。
- 普段の生活が日常とすると、災害時は非日常となる。災害対応としては、命の救済が優先され、その次に最低限の生活ができるレベルに復旧し、最終的に復興という流れになる。
- 災害及び復旧対応は行政の仕事。でもその先にある「復興」は行政だけではできない。一人ひとりの生活再建なので、行政の仕事の範囲でもあるが、市民にもやる気を出してもらう必要がある。
- 少子高齢化の現状を何もしなければどんどん悪くなるっていうのが今の時代。その中で復興が本当にできるか考えなければならない。
- さっき見せた本は平田オリザさん著書の「下り坂をそろそろと下る」という本。今までの日本の社会では、求められてきたこれさえあれば大丈夫みたいなところがあった。僕らも正直徹夜とかできなくなってきて、徹夜した次の日は精一杯で、どんどん物忘れが激しくなったり、嫌なことばかりですが、下り坂でも楽しく下れる。そういうことを考えていくのがこれからの時代。
- (本の真ん中ぐらいに)「世界が全体幸福にならないうちは個人の幸福はありえない」という宮沢健二の言葉がある。熊本の方は、「益城の方がもっと大変だから」と言い、益城の方に行けば人は「うちはまだ半壊だけん住めるけん」と言い、結局熊本全体は幸せにならないと、益城の復興はないと思う。中越地震でも「復興に終わりはない」とおっしゃっていた。それと同時に「復興と過疎対策」と言われたが、僕は現代風にいえば復興と地方創生っていうのは繋がることを話したいと思う。なぜかいうと、復興の絵の中で一番好きな絵がこの絵なので、最近色々な場で話すときに「これこそ地方創生の姿だ」と紹介している。
- これは皆さんご存知の水前寺公園(の写真)です。(震災後)水が少なくなり、中高生の皆さんが砂利上げを手伝ってくれているところです。500人の子ども達が来てくれて、コミュニティが崩壊していると言われていた中、そんなことないです。こういう姿を見て熊本って良いところだと再認識しました。
- 地方創生は簡単に言うと人口減少時代の中で、東京一極集中をやめ、若い世代に就労、結婚、出産、子育ての希望を与え地域の特性を生かした必須課題を解決しようというもの。
- 具体的な基本構想は4つあり、
 - ① 地方における安定した雇用を創出する

- ② 地方に新しい流れを作る
 - ③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を与える
 - ④ 時代に合った地域づくり、安全安心な暮らしを守り地域と地域を連携する。
- ・「まち・ひと・しごと」の好循環は右回りなんですけど、この絵はよく出ている。この会議の名称も「まち・ひと・しごと創生」となっているが、人が都市部から地方に移る。そのためにはそこが住みたい場所になるとか、ちゃんと働けるということが必要。上天草市職員の皆さんも1回は上天草を離れてると思う。「東京に出ていろいろ仕事して疲れて故郷に帰ってくる。」PVの登場人物のセリフにもあったが、やることなくなったら帰ってくる時代だった。(島根県)海士町では、故郷にやりたいことをやるために帰ってくる必要があるんだと話しています。

※田中座長に地方創生のきっかけを与えた人を座長から数名紹介。

→平成27年第2回会議の中でも紹介されたため、記載は省略。

平成27年度第2回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議(議事要旨)(P2~P5)を参照

<http://www.city.kamiamakusa.kumamoto.jp/q/aview/36/5637.html>

- ・海士町では町長が「故郷」という歌の替え歌を歌います。この歌は古いイメージ。「志を果たして」だから、孫も一人前になったから志を果たしに帰る場所が故郷。海士町は高校がないので、高校進学のために町(島)を出る。その後、Uターンをどのように進めるかが海士町の課題。
- ・上天草市では、中学校を卒業して上天草高校に進学する割合が3割に満たないと聞いている。近隣の天草高校に進学しているか聞いたら熊本市内の高校に進学しているとのこと。そういう状況だと天草、上天草に帰ってくる人がすごく少なくなってしまうので、上天草高校をもっと面白い高校にして、まずは上天草高校で勉強した子は、優先的に上天草で就職できるとか、大学は熊大に進学しても良いけど、天草に帰ってくる仕組みづくりができないかと考えています。僕があんまり喋っても面白くないのでその辺ちょっと入口さんにお話してもらう。
- ・上天草市の観光パンフレットの「みしらんガイドブック」や「上ガール(アガール)天草」を制作したきっかけはなんですか？
(観光おもてなし課 入口参事)
- ・前に作製した観光パンフレットは上天草の「観光ガイドブック」で5、6年前に作製した。一般的なパンフレットで、これを見て観光するとなると、イメージしか伝わってこないということで、観光者目線に立ち、どういったところに行って、どういったものを見て、どういったものを楽しむか、具体的に上天草に来られた方がこれを見て各地域に行って観光してもらうことが作製した目

的。特徴として、「上ガール上天草」は女性目線で作ったガイドブック。「みしらんガイドブック」は個々のお店等を紹介している。行政が作製するパンフレットは個別の事業者を紹介することは難しいが、ここにしかない「オンリーワン」のくくりで掲載することができた。

(田中座長)

- ありがとうございます。やっぱり行政が発行するマップとかに個店が載ることは、普通は拒むんだと思いますけど、実際にやってどうでしたか？

(入口参事)

- 例えば、上ガール天草に掲載しているスイーツ（９・１０ページ）がある。、このスイーツ屋さん全部上天草市内のお店を掲載しているが、何店か掲載を断ったところもある。この中の「春風庵」さんはかなりの部数を店舗に設置してもらったが、１週間程度で、無くなってしまった。このガイドブックを見てから来店したという話も聞いている。

(田中座長)

- ちょっと誰か、入口さんの応援してくれるって人いますか？これ見たとき変わったなと思う人いないですか？

(職員)

- 私もずっと上天草にいるけど、これを見て全然知らないお店とか、お店を知っていてもこんなのがあったんだなってびっくりしました。

(田中座長)

- 褒めたい方は褒めてもいいです。実際女子目線でどうだったのかな？

(職員)

- スイーツが載ってるのはうれしい。

(職員)

- 保護リストみたいな感じでかわいいと思います。

(田中座長)

- ２番目に「かわいい」がきた。そんなことない？がんばってるな。こうやってマーケティングしたわけじゃないんですか？

(入口参事)

- そうですね、女性の職員の意見を聞きながらこういったものがあたらいいなというのを取り入れました。

(田中座長)

- こういうことをやるのと地方創生っていうのは入口さんにとってどう絡ndemasu？

(入口参事)

- 実際に、通常の観光地として知られる天草五橋、イルカウォッチング以外の観

光地に行っていただけいているところでは地方創生かなと思います。

(田中座長)

- ありがとうございます。地方創生でよく話になることが、行政の皆さんって縦割りじゃないですか。縦割りのメリットもありますが、たまにそのメリットがデメリットになることもある。観光の仕事じゃないことが交差してできている。これがなかったら潰れてしまったかもしれないようなところのメリット。公共交通のことも含めて検討したり、丸ごとの上天草を考える。天草という事をよく考えるための一つの気付きなんですね。観光だけど、そもそも上天草のことも知らないっていう事も知っていくことっていうのが、そもそも地方創生の一番大事な事だと思っている。
- (宮崎の) 青島ビーチパークは年配の方はよく知っている。僕が修学旅行で行った時の青島のイメージは、鬼の洗濯岩や青島神宮があり、ハネムーンのメッカであった。古い観光地で観光客がどんどん減っている。青島のホームページのどんどん潰れ始めている。これはまずいということで、青島ビーチパークが整備された。小洒落たビーチというだけで他は特にないけど、昼間から1本800円程度のビールを飲みながらボーッできる。宮崎はサーフィンのメッカですので、この青島ビーチパークは思い切って海水浴客のターゲットを減らし、サーファーの皆さんに開放してる方が多い。でもその考え方を教えてくださったのは、藤田さんというライフセーバーで、今までになかった海岸を作りたいという夢を持たれている。
- 彼は全世界の渚や海岸を見て、ビーチっていうものは何か考えている。「青島ビーチパーク」という名称はすごく大事。アメリカに「ボールパーク」という野球場がある。、ボールパークでバーベキューをしたり、野球も観戦するけど、家族で空間を楽しむことができる。
- 藤田さんたちはここでライフセイバーの中学生講座をやっていて、中学生が毎日ライフセイビングを学びながら浜の環境学習をしたり、その観光に係る教育もされている。
- そういった甲斐もあって、観光客が、昨年まで20万人を切り、18万人になってたが、今年は盛り返して25万人にまで増えた。海水浴客は減ってます。しかしサーファーが増えたり、子連れのファミリー客が増えている。
- 藤田さんは、宮崎は日が昇るから良いと言っていて、日の出を見ながら朝ヨガをする人は前泊しないといけないので地元にお金が落ちてくる。これに夕焼けがあればと言っていたので、上天草や水俣は夕日がきれいなので青島ビーチパークと提携してはどうかと話したところ、すごく藤田さん喜んでた。
- そういう話をワークショップで話合っていたきたい。

ワークショップ

(田中座長)

- 今から「ワールドカフェ」形式でワークショップを行います。ワークショップで皆さんに守っていただく魔法の言葉があって、これを聞くと今後みなさんが住民の皆さんとワークショップをやるときにすごく楽な言葉があります。
- 1つ目は「他人を否定しない」こと。お互いを褒めたり、励ますことが大事。
- 2つ目は「人の話を聞く」こと。
- 3つ目は「自分の言葉で話す」こと。自分らしく自分の言葉で話すことって大事なんですけど、でもなかなか話さないんですよ。
- この3つ、これさえ守れたら、どんなにギスギスした職場でもとてもいい会話ができます。これはすごく即効性がある。これを市民とワークショップをする時に使うといいです。これは効果絶大。
- 皆さんのお手元にある白いテーブルクロス（広用紙）があります。そのテーブルクロスに落書きをしながら話をするというのがワールドカフェのスタイルです。なので最後に発表してくださいとかそういう事は全くないので、皆さんお気軽にしゃべってください。最後にアンケートはしますがそれ以外は特に何もありません。考えていただくのは、「上天草らしい観光」どうやってら上天草を楽しんでもらえるか、みしらんガイドもそうですよね。天草の観光っていうと、天草で一番おいしいものは何かとか、こんなことやらなくちゃいけないイメージにとらわれますけど、そうじゃなくて、ありのままの天草を楽しんでもらう。上天草らしい観光っていうことをどんどんテーブルクロスに落書きしてもらおうと思っています。例えば、「みしらんガイド2」を作る。とか何でも構いません。書いてもらう際のルールがあります。
- 1クール 10 分で、3 セットアイデアを出してもらいます。どんどん書いてもらい、いっぱいになる班が出てきたら、その班の仕事は終わりです。あとは楽しく周りを見つめていただけたらいいです。どちらかというと皆さんとしゃべることを楽しみながら他の人の考え方を聞きながら、自分の考えを付け足していくのもあります。1 セットの10 分が経過したら席替えをしてもらいます。とりあえず今から 10 分間上天草らしい観光のアイデアを一人一分程度とって書いてください。いきなり始めるのはなかなか難しいので、最初に自己紹介をしてください。

(田中座長)

- 会議終了後、懇親会を開催します。懇親会では、色んな相談もできますし、冒頭で紹介したのロバートのPVのようなやろうと思ったらやることはたくさんあります。今はそういうチャンスが満ち溢れていて、やらないと損です。長く天草に関わる仕事をしてきました。今は世界遺産に関係する仕事をしてい

ますので、天草の考古学などもやっています。天草市が大変なのは、合併して10以上の自治体がひとつになっているので地域差がある。上天草市のいいところは（合併した自治体が）4つしかなく、小回りがきくってというのが大事なので、もっと内側から提案して、提案されたアイデアがどんどん実現していくような上天草市になればいいと思っています。

- この後の懇親会にオブザーバーの皆さんにも来ていただいて夢を語る場をどんどん増やしていけたらと思っています。今日のワークショップはここで終わります。最後に今日参加された皆さんに拍手をお願いします。

（中村課長）

- 先生ありがとうございました。皆さんもありがとうございました。最終的には回収させていただいてアイデアのデータベースをとということでこちらの方を色々検討させていただきます。
- 最後に資料の1～3を説明させていただきます。一般の方向けの話が主なんです。企業版ふるさと納税という新しい制度がこの4月から実行されています。地方創生を支援する応援する税制ということで、企業が地方創生に関する事業計画をたてられた市町村に対して、事業応援したいという事であれば寄附を行う仕組みです。例えば、1,000万円の寄付をした場合、300万円の参入というケースがあるが、それにプラス3割税額の控除が加わるということで、1,000万だしても600万円は控除投下が行われて、寄附する側にもメリットがある制度ということになっています。ここは重要なんです。市町村や県がその制度を活用して地方創生を進めるために、こんな事業をやりたい、でもお金がない。だから企業さんに支援をしていただきたいということをお願いするというような仕組みになってます。
- 例として、資料2を見ていただきますと、今いくつかの案が検討されているが、そのうちのひとつに「スポーツ合宿の里づくり」という事業があります。上天草市には、アロマ（松島総合運動公園）や大矢野にスポーツ公園があります。体育施設は充実しているが、整備が必要な部分、もう少しグレードを上げて競技者を呼び込む工夫するための準備をしています。これをする事によって、高校生レベルのスポーツチームが練習のために使っていたものが、実業団などのチームに使っていただけるようになるかもしれない。という整備をこの企業版ふるさと納税でやる。そうすると、実業団で今練習場がなくて困ってるところが本事業に賛同して寄附する。その寄付した会社は整備後のグラウンドに名前が出る。それを見ながらその実業団やプロは練習をする。というようなイメージで仕組みを考えています。
- 今度は崎津天主堂が世界遺産登録されますが、それを睨んでもう一度上天草市のキリシタンの文化や遺跡を把握していくことを検討しています。二つの世

界遺産に挟まれる上天草が素通りされず、ここでもしっかりと楽しんでいただいてお金を落としていただける仕組みを検討しています。

- 特にこの一番目のスポーツ合宿の里づくりにつきましては、地方創生拠点整備交付金こちらの方を活用します。企業版ふるさと納税だけでは、どのくらいの金額集まるかわからない、予定事業ができるかわからないということがあります。地方創生のハードの交付金が付け足されますので、これを使って整備をする。企業版ふるさと納税と二つ合わせて整備していけば、スポーツ合宿の里ができるのではないかとやっているところです。
- その他、色々な地方創生を進める取組みを研究しております。移住定住、シティプロモーション、観光、雇用創出等、地方創生の交付金を活用しながらやっていますが、もっともっと取組みを広げていきたいと思っていますので何かありましたらご意見等いただければと思います。以上です。

(3) 閉会

(中村課長)

- それでは、これを持ちまして第二回のまち・ひと・しごとの創生推進会議を終了いたします。ありがとうございました。

第2回上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議 出席状況

区分	所属等	氏名	会議
産	一般社団法人天草四郎観光協会 事務局長	杉本 健一	○
	あまくさ農業協同組合大矢野統括支所 指導販売課長	宮内 勝幸	○
	株式会社マルマサ浜田鮮魚 取締役	瀨田 真和	○
	北垣水産	北垣 洋	○
	株式会社隆勢 代表取締役	岩崎 敏治	○
官	総務企画部総務課 参事	泉田 利博	○
	総務企画部監理課 係長	瀬脇 和弘	○
	経済振興部産業雇用創出課 課長補佐	岡元 宏洋	○
	経済振興部観光おもてなし課 参事	入口 結光	○
	健康福祉部福祉課 主事	瀬内 雄大	○
	健康福祉部健康づくり推進課 参事	寺 美有希	○
	教育委員会事務局教育部学務課 主事	小山 貴良	○
	教育委員会事務局教育部社会教育課 係長	篠田 良	○
学	熊本大学政策創造研究教育センター 准教授	田中 尚人	○
	熊本県立上天草高等学校 教頭	後迫 泉	○
金	株式会社肥後銀行大矢野支店 支店長	岩原 慎一郎	○
	株式会社熊本銀行大矢野支店 支店長	矢田 健一郎	○
	天草信用金庫企業業務部・地域創生室 理事部長	渡邊 一成	○
その他	もりのともしび デザイナー	片島 雄一	○
	もりのともしび デザイナー	片島 荷風	○
	上天草市セカンドライフ支援ネットワーク 会長	木下 榮	○
	姫戸ひかり保育園 副園長、寺院僧侶	深谷 恵了	×
	社会福祉法人上天草市社会福祉協議会地域福祉課 主事	松元 亜梨沙	○
オブザーバー	熊本県総務部市町村課 参事	上野 誠喜	○
	熊本県天草広域本部 総務部長	一 喜美男	○